ノンプロフィット・レビュー編集委員会 事業報告

2021年3月4日

1. 編集委員会の開催

■日時: 2021 年 2 月 17 日〜2 月 26 日 （メール審議）

2. 報告事項

（１）編集委員会の本年度活動および今後の刊行スケジュールと21巻1・2号の特集内容の確認

◆Vol.20,No.2の刊行について（※前期編集委員会マター）

* 2020年12月に刊行予定であったVol.20,No.2について、特集論文の原稿が予定通りに集まらず、当初の発刊予定より遅れて2021年4月刊行となった。
* 掲載内容は特集論文4本、書評4本（書評現在入稿済み1本）の構成となる。書評について

◆Vol.21,Nos.1&2の刊行について

* Vol.21,No.1は2021年6月に刊行予定であった。しかしながら、採択済み論文がないこと、Vol.20,No.2の発刊が遅くなったことを理由に見送ることにする。
* よって、2021年12月刊行の号をVol.21,Nos.1&2とする。
* 現時点での掲載予定は特集論文5本、第19回日本NPO学会学会賞受賞作品の書評数本を予定している。
* なお、現在査読中論文は2本である。

（２）学会賞書評の依頼について

* 第10期理事会では、学会賞選考委員内で書評執筆の担当者を選任し、原稿を編集委員会に提出する形式となっていた。
* しかしながら、原稿提出が遅れるなどの課題があり、第11期理事会から書評原稿の取りまとめについても編集委員会で行うことにする。

（３）博士学位論文要旨の学会誌への掲載募集について

* 博士学位論文要旨をVol.21,Nos.1&2に掲載できるように募集をかける。
* 対象者は令和元年度から令和3年度に博士号の学位を取得した者とし、投稿締め切りは9月30日とする。

3. 審議事項

【議案1】学会誌での新たな投稿論文枠「実践報告」について

【議案2】学会誌の投稿規定の改訂について

【議案3】その他（学会誌投稿の推進策について）

【議案1】学会誌での新たな投稿論文枠「実践報告」について

* これまでの議論を踏まえ、以下のように「実践報告」の概要案を示す。

実践報告

* 意図：実務者会員からの投稿も想定した、NPO 等の実践例の掲載。広く会員に示唆のある事例を紹介するための投稿論文種別。
* 内容：NPO・NGO、フィランソロピー、ボランティア、市民社会、社会的企業およびこれらの関連領域に関する実践的または革新的取り組み事例の報告、アカデミックと実践との融合・産学連携の実践報告。
* 形式：日本語は10,000文字、英語は 5,000語を上限とする。
* 審査：査読はなく、編集委員会によるプルーフリーディング（校閲）のみ行う。
  + 投稿から1ヶ月程度で校閲し著者に返送。その後1ヶ月程度で修正原稿の提出。再度編集委員がチェックし、必要に応じてコメント。その後校正作業が1ヶ月程度と考えると、4ヶ月程度で公表が可能となると考える。そのため、刊行の半年前にメーリングリストで募集をかけ、会員に投稿喚起を促すようにする。
  + 編集委員会により一定の水準に満たない場合には掲載をお断りすることもある。
* 予定：2021年12月刊行の号（Vol.21,Nos.1&2予定）から掲載募集。
* 専門性の高い実践報告が投稿される場合も想定し、非理事委員（委員会細則 第6条の6）あるいは外部有識者（委員会細則第6条の13）の登用を編集委員会で行うことも検討する。

【議案2】学会誌の投稿規定の改訂について

* 「実践報告」を掲載対象に加えるにあたって、投稿規定の内容を見直し、「別紙資料1」の通りに加筆修正する。

【議案３】その他（学会誌投稿の推進策について）

アイデアがいくつか出たが、引き続き議論をすることで継続審議とした。

以上

ノンプロフィットレビュー投稿規定変更案

|  |  |
| --- | --- |
| 変更前 | 変更後 |
| 2. 掲載対象および原稿作成方法  投稿論文は，NPO・NGO，フィランソロピー，ボランティアおよびこれらの関連領域に関する新しい学術的貢献を含む未発表の研究論文あるいはアカデミックレター，研究ノート，実践報告とします．（以下略） | 2. 掲載対象および原稿作成方法  投稿論文は，NPO・NGO，フィランソロピー，ボランティア，市民社会，社会的企業およびこれらの関連領域における未発表の研究論文あるいは研究ノート，実践報告とします．（以下略） |
| （なし）  ※以下、項目番号が一つずつずれる。 | 3. 投稿論文の区分  (1) 研究論文  上記の掲載対象に関する新しい学術的貢献を含む未発表の研究論文．査読あり．ただし特集論文（依頼論文）の場合，査読はなく，編集委員会によるプルーフリーディング（校閲）のみ．  (2) 研究ノート  　研究論文に準ずる報告．研究論文ほどの研究的価値は乏しいが，資料的価値があり，独創性，有用性，新規性などを有している報告．査読あり．  (3) 実践報告  上記の掲載対象に関する実践的または革新的取り組み事例の報告，アカデミックと実践との融合・産学連携などの実践報告．査読はなく，編集委員会によるプルーフリーディング（校閲）のみ． |
| 4. 分量  原則として，日本語論文にあっては20,000字、英語論文にあっては10,000語を超えることはできません． | 5. 分量  (1) 研究論文  要旨，本文，図表を合わせ，日本語論文にあっては20,000字、英語論文にあっては10,000語を超えることはできません．  (2) 研究ノート  要旨，本文，図表を合わせ，日本語論文にあっては20,000字、英語論文にあっては10,000語を超えることはできません．  (3) 実践報告  要旨，本文，図表を合わせ，日本語論文にあっては10,000字、英語論文にあっては5,000語を超えることはできません． |